

ガバナ遠隔監視システム「ガバナみはる」が 令和 7 年度中部地方発明表彰「発明奨励賞」を受賞

東邦ガスネットワーク株式会社（社長：柴田 喜充）は、公益法人発明協会が主催する令和 7 年度中部地方発明表彰において、ガバナ遠隔監視システム「ガバナみはる」※1が、愛知時計電機株式会社（社長：國島 賢治）と共同で「発明奨励賞」を受賞しました。

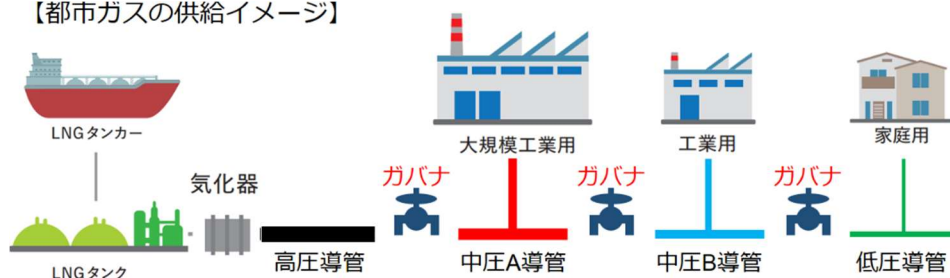
「ガバナみはる」は、ガス供給時に、ガスの圧力を調整する装置であるガバナの減圧状況等※2を常時遠隔で監視する装置です。減圧時にガバナ内で発生する乱流の影響を抑え、正確に圧力値を計測できるシンプルなデータ処理方法の発明が評価され、本受賞に至りました。データ処理を簡素化することで必要な消費電力を抑え、長期間の電池駆動も実現しています。

当社は引き続き、都市ガスを安定的にかつ安全にお届けすることで、災害に強く、環境に優しい社会の実現に貢献してまいります。

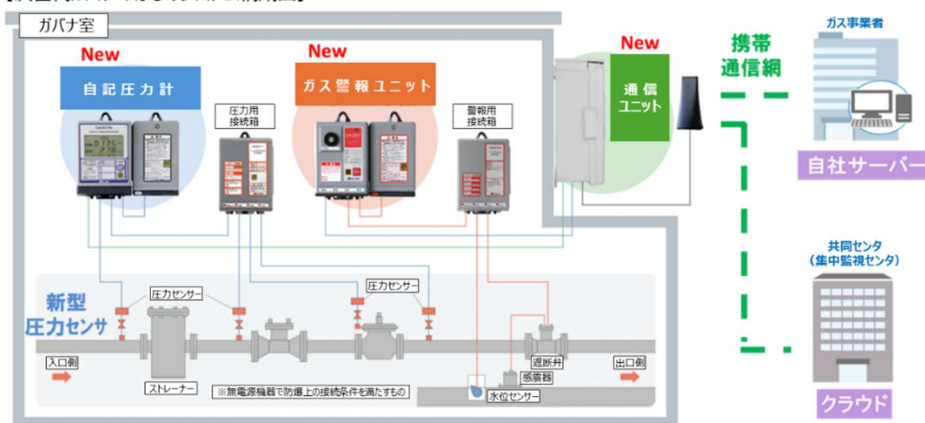
※1：当社の保有技術「ガバナみはる」<https://www.tohogas.co.jp/nw/technologies/check-01/>

※2：「ガバナみはる」の監視項目は、圧力異常の他に、ガス漏れ警報、浸水、出入口扉の開閉などがあります。

【都市ガスの供給イメージ】



【次世代ガバナみはるのシステム構成図】



<発明協会で開催した表彰式の様子>

